

明治大学



震災復興支援センター No.3

「若者の未来」のために、復興支援の輪を広げる



センター長挨拶



センター長 竹本 田持

2011年3月、未曾有の被害をもたらした東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故が発生し、5年が経過しました。また今年4月の熊本地震により、大きな被害があったところです。被災された皆様ならびに関係者の方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

本学は、東日本大震災後に「明治大学震災復興支援センター」を設置し、被災学生や受験生への支援、ボランティア活動を中心とする被災地域への支援、教育・研究を通じた復興支援などに取り組んでまいりました。今後も、東日本ならびに熊本の被災地域と連携しつつ、教育・研究を通じた各種支援に関わってまいります。さらに「震災を風化させない取り組み」や「次の震災に備える」という課題にも取り組みます。

なお、復興支援活動から地域活性化に向けた活動へと変化する被災地域のニーズに対応するため、本センター統括部署が、地域連携や社会人教育（リベティアカデミー）を担う社会連携機構と同じ「社会連携事務室」になりました。今後とも、教務部や学生部をはじめ全学的な協力のもと活動し、それをホームページ等を通じて積極的に発信することで、学内外の皆様のご理解とご協力をいただきたいと思います。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2016年7月

I 震災復興支援センターの設置

明治大学では、震災直後から統括防災本部の下で学生の安否確認、学内被災状況の確認や防災体制の強化、節電対策等の防災や危機管理活動を進めました。一方、被災地の一日も早い復興や被災された方々、避難されている方々の平常な生活を取り戻すため、大学として貢献できる方策を検討し、そのひとつとして、「明治大学 震災復興支援センター」を設置。

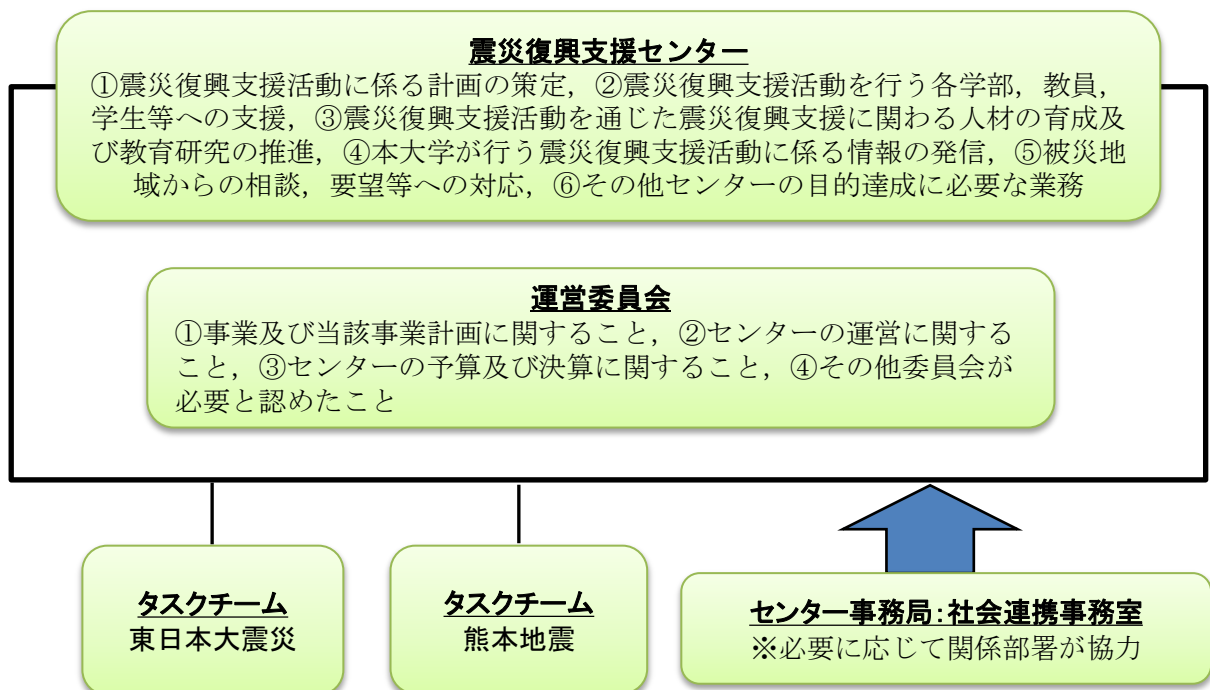
センターでは本学各部門における震災復興支援活動の支援、情報の一元化を図ることで大学の社会的責務を果たすことを目的としています。

センターでは、教務部、学生部と連携した学生ボランティアによる被災地支援を中心に活動しています。特に2011年から2015年まで教務部と連携し、全学共通の総合科目として、被災地支援のボランティア活動を含む学習に単位を認定するボランティア実習科目である、学部間共通総合講座「東日本大震災復興支援ボランティア講座」を開講しました。

今後は被災地との連携を強め、明治大学各部門における被災地復興支援活動、復興支援に関する教育研究活動の支援、風化を防ぐための事業を推進します。

II 震災復興支援センターの体制

震災復興支援センターでは、以下の体制で活動を実施。特に、震災復興支援活動を推進するための組織としてタスクチームを設置し、震災復興に関する協定を締結している自治体とは、当該組織を中心に活動を展開。2016年4月に熊本地震発生後は、熊本地震のタスクチームが発足。タスクチームは、今後も必要に応じて設置して機動的な復興支援活動を推進。



被災自治体と明治大学との復興支援に関する協力

明治大学による震災復興支援の経緯

- 2011年
 5月1日 学長のもと「震災復興支援センター」を設置
 6月5日 「浦安ボランティア活動拠点」を浦安市に設置
 →2014年3月31日閉鎖
 11月3日 「東北再生支援プラットフォーム『つむぎルーム』」を大船渡市に設置
- 2012年
 1月26日 新地町と「震災復興に関する協定」締結
 1月30日 「震災復興支援センター」を設置
 →2016年3月31日閉鎖
 1月31日 文部科学省の平成23年度「復興教育支援事業」に、震災復興支援センターの取り組み「復興支援人材を育成する正課外を通じたキャリア教育支援」が、採択される。
 4月23日 大船渡市と「震災復興に関する協定」締結
 5月18日 気仙沼市と「震災復興に関する協定」締結
 5月28日 浦安市と「包括的連携に関する協定」締結
- 2015年
 4月 「新地町明治大学ボランティア活動拠点」を新地に設置

明治大学 震災復興支援センター

明治大学では、被災地の一日も早い復興や被災された方々、避難されている方々の平常な生活を取り戻すために、大学として貢献できる方策のひとつとして、学長のもとに「明治大学 震災復興支援センター」を設置しています。センターでは本学各部門における震災復興支援活動の支援、情報の一元化を図ることで大学の社会的責務を果たすことを目的とし、全学体制で復興支援活動を推進しています。

被災自治体と明治大学との震災復興に関する協定書（復興支援協定）

被災自治体と本学との間の復興支援協定とは、「震災後の地域復興に関わる連携・協力を推進することによって、地域復興と地域を支える人材育成に寄与すること」を目的とした協定です。この協定に基づき、自治体と本学は、①震災後の地域復興・地域活性化、②復興の担い手となる人材育成、③教育・文化・学術面における地域の復興・発展、④その他の復興支援の四つの分野で連携していきます。

岩手県大船渡市（2012.04.23）

人口約40,000名。2001年11月に旧市と三陸町が合併して誕生。同市は、岩手県の沿岸南部に位置し、陸中海岸国立公園の代表的な景勝地として知られる碁石海岸や三陸沿岸の最高峰五葉山県立自然公園などを有する自然豊かで風光明媚な街として知られる。東日本大震災では、死者・行方不明者が425名を超え、物的被害も判明分だけで1,077億円を超えた。本学と大船渡市は2012年4月23日、東日本大震災に関わる諸課題の解決や施策の実施について協働するため、「震災復興に関する協定書」を締結。大船渡市へは震災直後から、本学からも多くの関係者が支援や調査のために現地へ活動を行っていた。特に震災復興支援センターでは、株式会社NTTPCとの協力のもと、「東北再生支援プラットフォーム『つむぎルーム』」を設置し、現地の中高校生などへの学習支援や、クリスマスツリーを設置。これらの積み重ねとともに相互訪問等、連携深化に向けた協議の結果、協定締結に至った。



宮城県気仙沼市（2012.05.18）

人口約70,000人。宮城県の北東端に位置し、東は太平洋に面し、南は宮城県本吉郡南三陸町、北は岩手県陸前高田市に隣接。沿岸域はリアス式海岸を形成し、その美しさにより、陸中海岸国立公園及び海中公園並びに南三陸金華山国定公園の指定を受けている。東日本大震災においては、同市の死者・行方不明者が1,322名を超えた。本学と気仙沼市は2012年5月18日、東日本大震災に関わる諸課題の解決や施策の実施について協働するため、「震災復興に関する協定書」を締結。



岩手県

大船渡市

気仙沼市

宮城県

千葉県浦安市（2012.05.28）

本学と浦安市は2012年5月28日、東日本大震災において液状化によって激甚災害指定地域となった同市と、「浦安市と明治大学との包括的連携に関する協定」を締結。震災復興支援センターは浦安市内に「浦安ボランティア活動拠点」を設置し、2014年3月31日に閉鎖するまで、学生による東北物産品の販売、小中学生への学習支援などを実施。震災による心身の疲れを癒すセルフケア講習会は2014年度まで開催。

福島県新地町（2012.01.26）

人口約7,800名。福島県最北部の太平洋岸にあり宮城県山元町に隣接。沿岸部のみならずJR常磐線新地駅周辺の市街地まで津波による被害を受けたが、現在では、同町の復興プランが、閣議決定を受けて新成長戦略に示された「環境未来都市」に採択され、急速に復興が進んでいる。本学と新地町は2012年1月26日、東日本大震災以後の地域復興に関わる諸課題の解決や施策の実施について協働するため、「震災復興に関する協定書」を締結。ボランティア活動を含めた学習を単位付与する実習科目である、学部間共通総合講座「東日本大震災復興支援ボランティア講座」の実習を、2012年度から2015年度まで新地町で行った。また、2015年4月に学生の活動時の宿泊先として、新地町明治大学ボランティア活動拠点がオープンした。



福島県

新地町

Ⅲ センターの主な取組み

ボランティア活動支援

○「東日本大震災復興支援ボランティア活動に伴う旅費交通費の一部助成」

意欲ある学生の経済的負担を少しでも軽減し、ボランティア活動が継続的に行われるよう、大学として後押しするために「震災ボランティア活動に伴う旅費交通費の一部助成制度」を創設。毎年述べ300～500名の学生が利用。

○講演会・シンポジウムの共催/後援・情報発信・会場の提供など、センターの目的に即した活動の支援

○ボランティア活動学生による『活動報告会』の開催

○センターウェブサイトやTwitter (@meiji_fukkou) において、本学の震災復興支援活動に関するイベント情報や、学生の活動状況に関する情報を中心に、各種関連情報を積極的に発信

被災地3県（岩手県・宮城県・福島県）での活動

○福島県新地町（2012年1月26日）、岩手県大船渡市（2012年4月23日）、宮城県気仙沼市（2012年5月18日）の3自治体と震災復興支援を目的とした協定を締結。※（ ）は協定締結年月日

○具体的な取組内容について、学習支援、祭り支援、ビーチクリーン及び長期的な支援活動を展開するための被災者支援アンケート調査を実施

Ⅳ 本学震災復興支援の経緯

【2011年】

- 5月 1日 学長のもと「震災復興支援センター」を設置
- 6月 5日 「浦安ボランティア活動拠点」を千葉県浦安市に設置(※2014.3.31閉鎖)
- 11月 3日 岩手県大船渡市に「つむぎルーム」設置
NTTPCコミュニケーションズなど3団体と「つむぎプロジェクト」を立ち上げ、学生ボランティアを中心に、子どもたちの学習支援などを実施

【2012年】

- 1月26日 福島県新地町と復興支援に関する協定を締結
現地視察や復興に向けた積極的な意見交換を行うなど本格的な活動を開始
- 1月30日 東北の被災地を支援するために「東北再生支援プラットフォーム」を猿楽町校舎に設置(※2016.3.31閉鎖)
- 4月23日 岩手県大船渡市と復興支援に関する協定を締結
- 5月18日 宮城県気仙沼市と復興支援に関する協定を締結
- 5月28日 千葉県浦安市と「包括的連携に関する協定」を締結

【2015年】

- 4月 福島県新地町に「新地町明治大学ボランティア活動拠点」開設
新地町より、仮設住宅の3住戸を、新地町での活動時の宿泊施設としてご提供頂く

V 東日本大震災復興支援ボランティア活動に伴う旅費交通費の一部助成について

● 助成方法

2011年度	1回の旅費交通費の半額で1人年間2万円を上限に助成
2012年度	1人年間20,000円を上限として福島県8,000円、宮城県9,000円、岩手県10,000円を助成
2013年度	1人あたりの上限なく福島県8,000円、宮城県9,000円、岩手県10,000円 ※福島県新地町9,000円
2014/2015年度	1人あたりの上限なく福島県9,000円、宮城県10,000円、岩手県12,000円 ※福島県新地町は10,000円

● 助成金利用数

(単位：人)

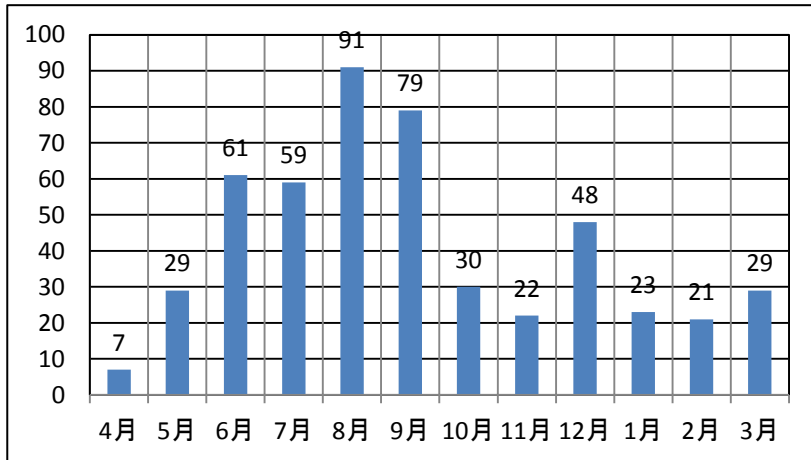
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
延人数	374	311	514	481	499
実数	330	244	309	298	248

● 2015年度申請者利用者数詳細

< 学年 >

1年	124
2年	90
3年	161
4年	117
大学院	7

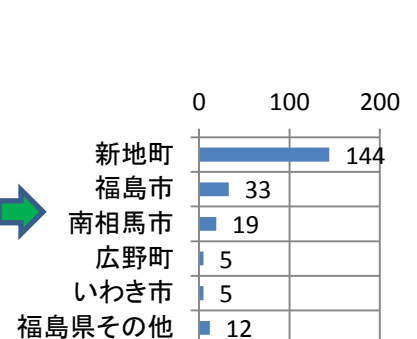
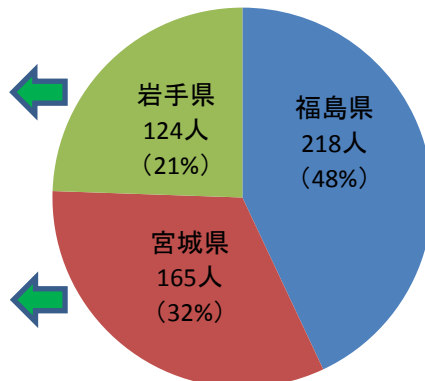
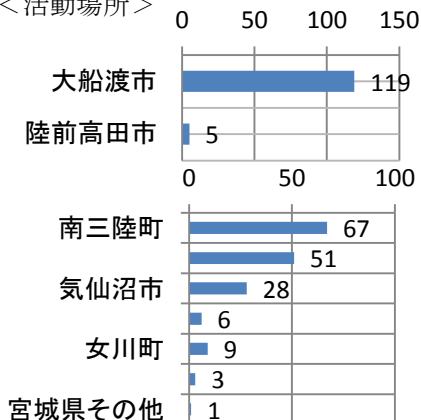
< 活動時期 >



< 学部等 >

法	100
商	57
政経	61
文	96
理工	45
農	44
経営	37
情コミ	24
国日	22
総合数理	6
大学院	7

< 活動場所 >



<活動内容 ※複数あり>

(単位：件)

避難所運営サポート／災害ボランティアセンターの運営サポート	3	12	5	0	0
泥出し・片付け（家屋、側溝等）	220	65	36	26	2
清掃・美化活動（避難場所、仮設住宅等での作業）	93	47	17	29	34
物資支援（支援物資の分類等含む）	0	1	0	0	0
食事支援（炊き出し等含む）	3	0	0	1	1
医療、健康（身体的、心理的なケア、足湯等含む）	0	4	0	0	1
文化、芸術、スポーツ（イベント等の開催含む）	102	12	62	101	150
子ども支援（学習支援、遊び支援等）	30	42	81	147	181
コミュニティづくり支援 （仮設住宅等のお茶会、行事開催のお手伝い、公園作り等）	5	73	140	155	136
地元産業の支援 （漁業・農業、手仕事づくり、商店街での販売の支援等）	60	94	53	80	130
その他	60	22	53	80	130

V 各協定提携自治体との主な取り組み

新地町

「明大Week in 新地」

- 学部間共通総合講座「東日本大震災ボランティア講座」のボランティア実習を実施（2012～2015），教職員の夏祭り支援などを含めた「明大Week in 新地」と銘打った組織的なボランティア活動を展開

「新地町明治大学ボランティア活動拠点」（2015～2016）

- 活動時の宿泊先として，2015年4月「新地町明治大学ボランティア活動拠点」開設

「東京YWCAとの協働」

- 共催で「東日本大震災の風化を防ぐフォーラム」を本学で開催（2013～2015）
- 東京YWCA主催キャンプ「新地っ子の夏休み」に本学学生がリーダーとして参加（2012～2014）
- 本学学生が実行委員となり「『新地っ子の夏休み』写真展」を本学で開催（2015.10）

「その他」

- 和泉図書館ホールでの第3回写真展「私たちは忘れない—今，明大生にできること」の東日本大震災復興支援連続講演開催，現地NPO法人理事が講演（2014.5.22）
- サークル主催デイキャンプの開催，ゼミ活動の実施，総合講座受講生による独自の活動などを実施



新地町明治大学ボランティア活動拠点

大船渡市

「つむぎプロジェクト」

- 株式会社NTTPCコミュニケーションズなど4団体と「つむぎプロジェクト」を立ち上げ、大船渡市に「つむぎルーム」を設置(～2016.3)、学生ボランティアを中心に、祭り支援、子どもたちの学習支援などを実施

「地域資源活用交流促進事業」

- 阪井ゼミを中心としたつむぎプロジェクトやゼミ活動において、従来の祭り支援・学習支援・仮設住宅でのイベント開催などの活動に加え、現地の資源活用支援(無人島の開拓、椿産業化など)を実施

「セルフケア講習会」

- 文学部・平山満紀准教授(社会学・身体論専門)が、震災による心身の疲れを癒すセルフケア講習会を定期的に開催(2014～)

「その他」

- 本学マンドリン倶楽部の演奏会を現地で開催(2014.3)
- 本学博物館の所蔵品を大船渡市立博物館で展覧、講演会・体験教室を実施(2014.7.26～8.31)



ゼミ生が作成したマップ



盛町七夕祭りの開催準備

気仙沼市

「祭り支援」

- つむぎプロジェクトが主体となった祭り支援

「気仙沼市職員採用試験」(2012年～)

- 気仙沼市職員採用試験の東京会場に駿河台キャンパスを提供

「デイキャンプ開催」

- サークル主催キャンプの開催(2014～)

「その他」

- 本学マンドリン倶楽部の演奏会を現地で開催(2014.3)
- 和泉図書館ホールでの第3回写真展「私たちは忘れない—今、明大生にできること」の東日本大震災復興支援連続講演会で、気仙沼市長が講演(2014.5.29)
- 気仙沼市にあるリアス・アーク美術館の震災記録写真展を、本学博物館で開催(2015.2.23～3.26)、記念講演会でリアス・アーク美術館学芸員が講演
- 気仙沼市実施アンケート調査「結婚・出産・子育てに関する意識調査」において本学教授が結果を分析



その他

○ホームカミングデー「震災復興支援プロジェクト」

ホームカミングデーで、本学が取り組んでいる復興支援活動を紹介するための写真展、活動報告会を開催するとともに、被災地物産販売等を実施しました。

○東日本大震災復興支援活動報告会

震災復興支援活動を「見える化」し、お互いに連携して今後の活動を考える機会とすることを目的に、震災復興支援に携わっている学内の学生団体による活動報告会を開催しました。

○学部間共通総合講座「東日本大震災ボランティア講座」（教務部，2011～2015）

被災地でのボランティア活動を含めた学習に単位付与する実習科目を設置。学生の震災関連ボランティアを後押しして被災地支援につなげるとともに、ボランティア活動を通じて、学生の自主性や社会性を育むことを目的とする。2011年度60名，2012～2015年度では毎年20名前後の学生が履修。※実習地：2011年(千葉県浦安市・岩手県大船渡市)，2012年～2015年(福島県新地町)



東日本大震災復興支援活動報告会

熊本地震に対する本学の対応

○義援金募集:5月1日～6月15日

○熊本県益城町への教育復興支援活動推進事業

6月9日に開催された熊本県立父母会総会、父母懇談会・懇親会に、土屋恵一郎学長が出席したことがきっかけで、特に被害の大きかった益城町立木山中学校を中心に学習支援など、教育復興支援活動を推進事業を開始。

<第1回>

「自分の未来を考える『夢講義』」

7月15日、萩原一郎特任教授が、被災地の中学生に向けた教育支援活動として、益城町立木山中学校にて開催。「ものづくりに新しい価値を創造する計算科学&折紙工学」と題した講義と、実習の二部構成で実施、2・3年生の生徒役170人が参加。



震災復興支援センターでは、学内諸機関や教職員の復興支援活動の状況をとりとまとめ、順次、被災地復興に必要な活動を展開してまいります。

明治大学 震災復興支援センター

(2016年7月 第3版発行)

■事務局（学術・社会連携部 社会連携事務室）

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン11階

TEL : 03-3296-4412 FAX : 03-3296-4542

E-mail : fukkou@mics.meiji.ac.jp

Twitter : @meiji_fukkou

URL : <http://www.meiji.ac.jp/reconstruction/index.html>